

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ICT機器を効果的に活用し学びを表現する力の育成
- 見通しをもって学習計画を立てる力や自らの到達目標をもって学習を進める力、学びを振り返って改善する力の育成

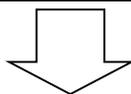
現状分析

区学力調査の結果分析

区学力調査の達成率は、1年は72.3%、2年は69.7%、3年は69.8%で、目標値70%とほぼ同数値、または上回る結果となった。観点別に見ると概ね目標値70%とほぼ同数値、または上回る結果だったが、2年の主体的に学ぶ態度が59.8%、3年の知識・技能が64%、また主体的に学ぶ態度が66.9%と課題が見られた。

教科指導上の課題

- 生徒が主体的に学ぶことができるよう、生徒の興味関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れる必要がある。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め学習内容を確実に身に付けることができるよう、ICTも活用しつつ繰り返し学習を取り入れる必要がある。



授業改善プラン

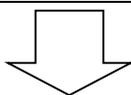
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 一斉集団学習に加えて、ICTの使い方やワークシートの種類等の方法選択学習、またテーマや難易度の異なる課題選択学習を取り入れる。 ● 発表や討論、新聞やレポートの作成等の問題解決型の授業等で、協働的な学びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT機器を活用し、Qubena等のドリルを家庭学習等で用いて「つまづきポイント」を特定しながら進めることで基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ● 単元ごとのシラバスフォリオを用いて、見通しをもって個々の到達目標に向かって学び、振り返って次の学習に生かすよう指導する。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の感想文や作文などを小集団で発表し合い、互いに評価したり、良いものを取り入れたりしながら今後に生かせるようにする。 ● 個に応じた役割を分担し、グループでの発表を作成したり、対話・質問・討論などの授業で、協働的な学びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● Qubena等のツールを利用して、基礎的な問題を繰り返し反復学習させることで、基礎知識の定着を図る。 ● 授業で小テストを定期的の実施して、日常の家庭学習をルーティーン化するよう導く。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 一つの学習課題を設定し、生徒が自分で学習計画を立てて取り組む活動を取り入れる。学習テーマ、学習方法など、生徒が自身に適した学び方を選べるようにする。 ● 討論や発表など、他者と協働する学習を多く取り入れ、自身の考えが広がる深い学びをさせることで、生徒の学習に対する主体的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● Qubena等のツールを利用して、基礎的な問題を繰り返し反復学習させることで、基礎知識の定着を図る。 ● 小テストや定期テストの振り返りを行い、自分の得意な分野と苦手な分野の分析を通して、次の学習に取り組む姿勢を考えさせるよう指導する。

(2) 社会科

【中学校】

社会科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● 個の能力に応じた課題を設定し、基礎的・基本的な知識および技能を習得させる。基礎的な知識を習得させるための学習の振り返りとともに、知識を活用しながら取り組む課題も設定していく。● 社会的な見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力を育成するために、主体的・対話的で深い学びにつながる指導の工夫に取り組んでいく。● 持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育成していく。そのために、よりよい社会の実現という視点からの課題を設定し、その課題を主体的に解決しようとする態度を育成する。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● 学習課題に対しては関心をもって取り組む生徒が多くみられ、積極的に発言する生徒も多い。特に知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、定着率を高める工夫をしていく。● 資料を読み解いたり、考察した結果を論理的に表現する力を養うために、論述・表現をとまなう課題を設定する。● 問題文や課題の指示と、提示された文章や資料とが正確に結びつけられるよう、課題を提示する段階で考える視点や内容、論述する際に必要な記述内容を具体的に示す。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 一斉指導の中で、ICTを使用して意見を共有する時間や実際に話し合って意見を共有する時間を取り入れ、多くの意見に触れることで協働的な学びを充実させる。● ICT機器を活用し、Qubena等のドリルを家庭学習等で用いて「つまずきポイント」を特定しながら進めることで基礎的・基本的な内容の定着を図りながら個別最適な学びを充実させる。	<ul style="list-style-type: none">● 単元ごとにICTを活用した振り返りシートを作成し、見通しをもって到達目標に向かって学び、振り返って次の学習に生かすよう指導する。● クイズアプリ「Kahoot!」を活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。また生徒自身にクイズを作成させることでより一層の知識の定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 電子黒板を活用して、学習意欲を高める教材や課題を準備する。● GoogleClassroomに授業で使用したスライドやワークシート等をアップロードし、個別に学習の振り返りができるようにする。● 意見を共有する時間を設定したり、問題解決型グループワーク、ディベート等を導入したりして、対話・協働的な学習を通じて課題への見方・考え方を広げ深めさせる。	<ul style="list-style-type: none">● Qubena等のドリルを家庭学習等で用いて「つまずきポイント」を特定しながら進めることで基礎的・基本的な内容の定着を図る。● 図表やグラフなどについては、設問や課題に対してどこに着目し、何を読み取り、どのように表現するのかを明示する。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● 電子黒板を活用して、学習意欲を高める教材や課題を準備する。● GoogleClassroomに授業で使用したスライド等をあげて、個別に学習の振り返りができるようにする。● プレゼンテーション、問題解決型グループワーク、ディベートを導入し、グループ内での対話・協働的な学習を通じて課題への見方・考え方を広げ深めさせる。	<ul style="list-style-type: none">● 授業においては、基礎的・基本的事項をできるだけ分かりやすいパラグラフとして分類し、何をしっかりと理解し覚える必要があるのかを明示する。● 単元ごとに基礎・基本を中心とした振り返りテストを実施する。● 図表やグラフなどについては、設問や課題に対してどこに着目し、何を読み取り、どのように表現するのかを明示する。

(3) 数学科

【中学校】

における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● ICT 機器を効果的に活用して主体的・対話的で深い学びを充実させ、確かな学力の定着に努める。● 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育む。● 補充教室を計画的・組織的に実施し、個別の学習課題の解決のための学習支援を充実させる。

現状分析
区学力調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">● 達成率は、1年が66.2%、2年が76.5%、3年が74.8%で、2～3年は目標値(70%)を上回っているが、1年は目標値に到達せず、領域別では「変化と関係」の正答率が50.0%と課題がみられる。● 学年が上がるにつれ、達成率が上昇傾向にあり、習熟度別指導の効果が現れていると考える。● 1年は「変化と関係」、2年は「図形」で区平均を下回っている。3年生はすべての領域で区平均を上回っている。
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● 区学力調査の結果では、区平均並みもしくは上回っている。一方、意識調査では、肯定的回答が区平均を下回る質問項目が多い。探究的な学習活動や、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、問題解決する学習の充実が課題である。● 区平均を下回った領域について、既習内容の理解度や習熟度を踏まえ、授業改善に努める必要がある。



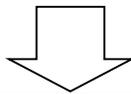
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 習熟度に応じたスパイラル学習を充実させ、個別最適な学びを進める。● 支援が必要な生徒に対して、質問教室や補充教室を行い、指導の個別化を行う。● 各単元において、思考・判断の問題を取り上げ、グループ学習により、協働的な学びの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">● 章末テストを実施し、学習状況を確認する。達成率に応じて、単元を振り返る学習を行い、知識・技能の確実な定着を図る。● Qubena等ICTを活用した取組により「つまずきポイント」を特定し、家庭での学習習慣を身に付けさせて、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 学習内容の振り返りを行うことで系統性をもたせ、個に応じた指導の充実を図る。● 支援が必要な生徒に対して、質問教室や補充教室を行い、指導の個別化を行う。● 論証問題を取り上げる機会が増えることから、グループ学習の機会を意図的に設け、協働的な学びの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">● 章末テストを実施し、きめ細かな到達度の確認を行う。● 既習事項の振り返りレポートを取り組ませ、知識・技能の定着を図る。● ICT機器を活用し、視覚的な理解が深まる取組を充実させる。特に、「図形」領域における活用を進める。● Qubena等のドリル学習を家庭学習で取り組ませ、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● 支援が必要な生徒に対して、質問教室や補充教室を行い、指導の個別化を行う。● GoogleClassroomに授業内容をアップし、個に応じて学習の振り返りができるようにする。● 思考・判断を伴う問題や論証問題を積極的に取り上げ、話し合い活動を通して協働的な学びの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">● 既習事項の復習を充実させるとともに、章末テストを実施し、到達度の確認と、個に応じた課題設定を進める。● 定期考査等の振り返り学習を通して、自己調整しながら課題の克服に向けた取組を進められるよう支援する。● Qubena等の学習ドリルを家庭学習等で用いて「つまずきポイント」を特定し、基礎的・基本的な内容の繰り返し学習を通して、内容の定着を図る。

(4) 理科

【中学校】

理科における指導の
<ul style="list-style-type: none">● 基礎的・基本的な知識・技能の習得● 根拠をもって予想したり、観察・実験の結果を整理し解釈したことを説明したりする力の育成● ICTを効果的に活用した問題解決型の授業の実践

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● 科学的な事象に対しては関心の高い生徒が多く、観察や実験に意欲的に取り組む一方で学習したことを日常生活の現象に結びつける力を育む必要がある。日常で見られる現象や身近なものを題材にし、既習内容と日常生活で見られる自然事象を結びつけて考えられるような授業を進める点が課題である。● 基礎的・基本的な知識の習得へ向けてICTを活用しながら継続して反復学習に取り組めるように工夫する必要がある。



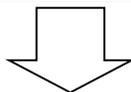
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 単元の内容に関連する課題を設定し、ICTを用いて課題解決のために必要な情報を自ら調べ、探究する時間を設定する。多様な考え方や学び方を幅広く認める指導をする。● 自分の考えをしっかりと表現し、他者と共有する活動の場面を多く設定する。ICTを活用しながら協働的な学びを意識した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none">● 日常で見られる現象や身近なものを題材にし、既習内容と日常生活で見られる自然事象を結びつけて考えられるような授業を進める。● 反復学習したことがきちんと成果に現れる小テストを実施し、達成感をもたせられるようにする。● Qubenaを用いて、基礎的・基本的な内容の定着を図っている。生徒自身の理解状況に合わせた学びを進めていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 従来の参考資料の資料集をやめ、パワーポイントによる、より具体的な写真や動画を利用して授業を展開する。● 昨年度利用し効果的だった事前リストによる小テストを継続して実施していく。生徒が互いに出題し満点を目指し努力できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">● パワーポイントで授業を進める中で、単元項目に応じた学習プリントを配布し、テスト前の復習に活用できるようにする。● 定期的に問題集の該当単元箇所を指示し、振り返り学習を行う。またテスト前にも確認学習をして、定着を図っていく。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● 観察や実験の考察は自分と同じ班や違う班の結果を基に考えることができるように班やクラスでの話合いの時間を設けていく。● 定期テスト前には個人で作った問題を集め、早押しのクイズ形式で出題することで楽しみながら反復練習ができるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">● 粒子モデルや宇宙の広がり等についてはCGを用いた映像で、より理解しやすくする。● 個人の到達度別に出題されるQubenaを用いて1,2年生の内容の復習を行い、自分のペースで学習できるようにする。さらに購入したワークも用いることで、たくさんの問題に慣れることができるようにする。

(5) 音楽科

【中学校】

音楽科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● 音楽科における基礎的・基本的な知識・技能(楽譜の読み取り、鑑賞の際に自分の言葉で表現する力、合唱や楽器の奏法の基本的な技能の取得)を確実に習得させる。● 個別の学習課題の解決のために、ICTを活用し、再度音楽を鑑賞したり、自分の演奏を録音したりするなど、自分の課題を見つけられるよう繰り返し学習できる学習環境をつくる。● 歌唱、鑑賞、創作の幅広い学習を通して、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽について学習し、理解を深める。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● 楽譜を正確に読み取る力に大きく個人差があり、繰り返し指導する必要がある。(リズム、音符記号、階名、強弱記号など)● 鑑賞の分野では、自分の言葉で記述する力を育むため、自分が感じたことを表現できるように、ペア学習やグループワークなど他者と意見を共有する機会を増やす必要がある。● 表現することに対しより積極的になれるよう、鑑賞の授業ではさまざまな音楽や表現を学ばせ、表現の幅を広げさせたい。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 鑑賞教材の導入などをより生徒の年代や生活にあった教材から選定し、興味関心を高める工夫を行う。● さまざまな分野で自分が感じたことをペアやグループワークなど他者と意見を共有する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none">● 基本的な楽典の学習を反復し、より身近に使えるように、鑑賞・表現の分野に関わらず、ことあるごとに触れ、使用する機会を多く設定する。● 毎回の授業で基本となる発声練習などを短時間でいき、姿勢や口の開け方、呼吸法などと交えて、正しい演奏方法を身に付けさせていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● ICTやデジタル教材を活用し、さまざまな表現があることを学び、自分が表現したい音楽を探させる。また、それを表現できるように技能を身に付けさせる。● さまざまな分野で自分が感じたことをペアやグループワークなど他者と意見を共有する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none">● 基本的な楽典の学習を反復し、身近に使えるように、鑑賞・表現の分野に関わらず、使用する機会を多く設定する。● 毎回の授業で基本となる発声練習などを短時間でいき、姿勢や口の開け方、呼吸法などと交えて、正しい演奏方法を身に付けさせていく。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● ICTを活用し、複数での表現活動を設け、お互いを認め合い、支え合う土壌をつくることで、安心感がある表現空間を作る。● さまざまな分野で自分が感じたことをペアやグループワークなど他者と意見を共有する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none">● 基本的な楽典の学習を反復し、身近に使えるように、鑑賞・表現の分野に関わらず、使用する機会を多く設定する。● 毎回の授業で基本となる発声練習などを短時間でいき、姿勢や口の開け方、呼吸法などと交えて、正しい演奏方法を身に付けさせていく。

(6) 美術科

【中学校】

<ul style="list-style-type: none">● 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。● 多様な表現方法や造形要素に関心を持ち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。● 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

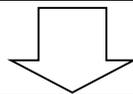
現状分析

教科指導上の課題

(1年生) どのような題材に対しても、熱心に取り組もうとする。制作や題材のねらいをつかみ、作品を仕上げるができるよう、授業の目的やねらいを毎授業の始めに明確に提示し声かけを行う。

(2年生) 見通しをもってコツコツと進める生徒が多く、描写も丁寧である。自分の考えを作品だけでなく、言語化できるように発表・ワークシートを行う回数を増やす。

(3年生) 教科のもつ楽しさや魅力を題材ごとに授業の中で伝えたり、興味関心をひく導入を行ったりして、集中力を持続させ、個人の活動の充実を図る。



授業改善プラン

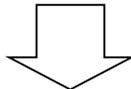
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 生徒一人ひとりが、見通しをもち授業に取り組めるよう、制作の始めに、残りの制作の回数や本時で何を行うかを生徒それぞれが確認できる時間を設ける。毎時、他の生徒の作品を授業終盤に見てまわりながら、自身と全体の活動をもとに振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none">● 小学校の内容などこれまでの制作の知識や技能が授業の中でつながるよう、導入やデモンストレーションの時に振り返りをさせ、生徒が意識して実践できるようにする。また、自身の作品を写真などで記録に残し、振り返りと評価に活用する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 作品が完成した時だけではなく、制作途中にも簡単な鑑賞会を行い、制作中の自分の考えや工夫したいところなどをグループで発表し合い、作品を通して自分の考えを他者に伝える力を身に付けさせる。● ポジティブな声かけを行ったりピックアップした意見を全体で紹介したりして話しやすい雰囲気づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none">● 様々な作家の作品を鑑賞する中で、教科書や資料集など既にある記事や紹介文を積極的に授業に取り入れ、作品や意図をよりの確に表現できるように、より多くの語彙にふれる機会を設ける。また、質問やワークシートに出てきた解答に対し、さらに深く掘り下げていくような質問を重ね、自分の考えをより具体的にさせる。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● 「どうして学ぶのか」「社会や人間、文化とどのように関わるのか」を中心に、スライドや作品例を用い題材の導入を生徒の視点に立って分かりやすく行えるような授業づくりを行う。また、生徒とやりとりを交わし、個々の理解度やどのような事に興味があるのかなどを知り授業づくりの手立てとする。	<ul style="list-style-type: none">● 制作の仕方や道具の使い方など、分からない事が生じて作業が止まらないよう、机間指導で繰り返し指導を行い、見て覚えるのではなく、実際にやりながら覚えさせ、定着を図る。● iPadを資料検索に使い、授業の時間短縮に活用する。

(7) 保健体育科

【中学校】

保健体育科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● 個の能力に応じた課題を設定し、基礎的・基本的な知識および技能を習得させる。基礎的な知識を習得させるための学習の振り返りとともに、知識を活用しながら取り組む課題も設定していく。● 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育み、また生涯にわたって健康を保持増進することでの豊かなスポーツライフの実現を目指し、スポーツや運動に対する見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力を育成するために、グループ学習や個に応じた学習に ICT 機器を積極的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びにつながる指導法の工夫に取り組んでいく。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● 学習課題に対しては関心をもって取り組む生徒が多くみられ、積極的に運動活動に取り組んだり発言したりする生徒も多い。● ICT を活用した個人の動作分析が円滑に行えている。一方でグループ学習にICTを活用し、落とし込む活動の充実を図る必要がある。● 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育み、また生涯にわたって健康を保持増進させるために、授業内容と日常生活をつなぎ合わせるための日常に生かすことのできる学習活動を増やしていく必要がある。(マラソン大会、球技大会等、学校独自のスポーツフェスティバル等、生徒が主体的に取り組めるスポーツ活動の開発)



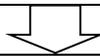
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 各々が取り組みたい課題に挑戦できるよう、ICT 機器を使用しながら、運動のポイントや練習方法の共有を図ることで、個別最適な学びを生み出す。● 協働的な学びに関しては、ICT 機器を使用した客観的なデータ(映像や静止画)をもとに、チームで課題解決に取り組ませることで、協働的な学びの実現をはかる。	<ul style="list-style-type: none">● 基礎的な内容の定着をはかるために、振り返りから改善までの流れを明確化して取り組ませる。具体的には、①授業後:何ができていて・できていないかの振り返り②授業後:できていないことを解決するための方策の検討③授業前:②をふまえた本時での取組の計画の作成④授業中:実行の流れをポートフォリオ化して、連続させた学びを実現させる。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 協働的な取組では、ICT 機器を活用することで、運動のポイントや練習方法の共有を図り、個に応じた習熟度別の学習に取り組ませる。● ICT 機器を活用して発見した個人やチームの課題を仲間同士で交流し、よりよい作戦を考えたり、教え合い、学び合えるよう言語活動の時間を多く設ける。	<ul style="list-style-type: none">● 単元の中で計画的に対話的で探究的な学習の場面を設定する。● ICTをさらに活用し、自宅でも視覚的に課題を把握できるようにする。紙面での記述とICTを活用した記述を併用し個に応じた取組を設定する。● 主運動につながるゲーム的要素を取り入れた補助運動を行う。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● ICT 機器で撮影した動画を共有し、各自の視点に基づいて振り返りをさせ、自分の考えを明確にすることで、さらなる学びを引き出す。● ICT 機器を活用して発見した個人やチームの課題を仲間同士で交流し、よりよい作戦を考えたり、教え合い、学び合えるよう言語活動の時間を多く設ける。	<ul style="list-style-type: none">● 単元の中で計画的に対話的で探究的な学習の場面を設定する。● ICTをさらに活用し、自宅でも視覚的に課題を把握できるようにする。紙面での記述とICTを活用した記述を併用し個に応じた取組を設定する。● 主運動につながるゲーム的要素を取り入れた補助運動を行う。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

技術・家庭科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● ICT機器を効果的に活用し主体的に学びに向かう態度を育成する。● 生徒一人ひとりに見通しをもった学習計画を立てさせる。● 主体的・対話的で深い学びを充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● (技術) 少ない授業時数の中で、熱心に取り組んでいる生徒も多く、周囲の生徒に対しても良い影響を与えつつある。一方で、主体的に課題に取り組み技能が身に付けられるよう、追加の学習指導を実施する必要がある。● (技術) 各単元の学習目標を達成させるために、生徒が学習目標をよく理解し、達成に向けて取り組みやすい活動になるよう指導していく必要がある。● (家庭) 小学校の学習内容を振り返りながら、既習事項における知識・技能の習得を図る必要がある。また、自分の考えを文章化できるよう、授業内で自分の考えを文章にして、正しく相手に伝える練習を繰り返す。法律や制度など理解が難しいと感じるような内容も楽しく学習できるよう、生徒の将来にとって役に立つことを理解させる必要がある。



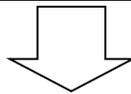
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● (技術) iPadで授業のすべての資料を確認できるよう、アーカイブ化を行う。● (技術) 意見の共有には、手書きに比べて記述の時間効率が良いiPadを活用し、従来より多くの意見交流ができるよう授業を実施する。● (家庭) 個人で意見を考える際に、iPadの予測変換などに頼らず、自分の意見を正しい言葉遣いで正しく記入する活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none">● (技術) 学習の基盤となる、小学校や関連する他教科の学習内容の定着に応じて、その課題を認識させるための学習支援を行う。● (家庭) 小学校の学習内容を「Kahoot!」などを活用し、クイズ形式や口頭で振り返る時間を作る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● (技術) 毎時の学習課題を認識させ、生徒が自分で設定された目標に向けて学習に取り組むことができるよう指導する。● (家庭) ひとつの課題に対して、個人で考えてから意見の共有をする時間を多く設定し、繰り返すことで、より考えを深めることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">● (技術) 学習の基盤となる学習内容の定着に応じて、その課題を認識させるための学習支援を行う。● (家庭) 実習において、基礎、基本を繰り返し指導する。生徒同士で作業内容を確認できるような授業展開にする。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● (技術) どうしたら課題を解決できるのか、学習している知識をどこに活用する必要があるのかを2～4人のグループで考える活動を基軸に、授業を展開する。● (家庭) 一人1台端末やデジタル教材を活用してできるだけ多くの資料を用意し、学んだ知識が実生活に生かせるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">● (技術) 学習の基盤となる学習内容の定着に応じて、その課題を認識させるための学習支援を行う。● (家庭) 課題の提出期限を確実に守れるように指導する。発問を反復し、学んだ知識を家庭で活用する姿勢を育成する。

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点
●基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。 ●ICT 機器を効果的に活用し、対話的で深い学びを充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ●生徒一人ひとりが学習計画を立てながら、自らの目標の達成に向けて主体的に学習を進める力の育成。

現状分析
区学力調査の結果分析
● 区学力調査の達成率は、2年は68.2%、3年は67.6%でいずれも目標値を下回る数値となった。課題として、「語形・語法の知識・理解」について、-17.6ポイント(3年)、「場面に応じた英作文」が-17.3ポイント(2年)と大きく下回った。
教科指導上の課題
● 3年生では文法導入後の反復練習を十分に行い、2年生では疑問詞を含む Q&A を日常の授業に取り入れ、知識を定着させ、表現力を身に付ける指導が必要である。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">● 課題を解くヒントを事前に用意しておき、ヒントなしで達成したい生徒は自分の力で、ヒントをもらって達成したい生徒はヒントをもらいに行くなど、生徒が選択できる指導の環境をつくる。● 言語活動を通して、生徒が交流する時間をつくる。例えばクラスワークとしてクイズ大会を行う(その際ヒントの英文をペアで作成する)など、既習事項を協働でアウトプットできる場を設ける。	<ul style="list-style-type: none">● 1時間の授業の中で達成したい目標に対して、時間の幅をもたせ、時間をかけてその目標を達成してよいという時間を作る。また早く目標を達成できた生徒には発展課題や類似課題を用意する。● Qubena を用いて、一人一人の習熟度に合わせ、くり返し問題演習をさせる。全員に到達してほしい課題はワークブックにして配信する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">● 日常の授業の中で個別と全体で教師との Q&A などを通し、対話の流れにあった英文を伝えられるよう、指導する。● Q&Aを行う際、一言で終わるのではなく、一文付け加えながら、互いにアウトプットする機会を充実させる。また、語彙を共有して、表現の幅を広げられるようにする。	<ul style="list-style-type: none">● 帯活動でのスピーキングの時間をきちんと設定し、時間内でくりかえし練習をするよう指導する。● ICT 機器を活用し、Qubena等のドリルを家庭等で用い「つまづきポイント」を念頭に基礎・基本の定着を図るよう指導する。
3年生	<ul style="list-style-type: none">● 毎時、前時の復習や基本的な表現の口頭での反復練習を取り入れ個の苦手を克服させる手立てをとる。● ペアワークやスピーチ、プレゼンテーションの機会を通して互いに正しく内容を伝える機会を増やし、意欲と達成感の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">● 口頭練習の繰り返しを行ったのち、ドリル問題を使用し、書くことによって、その表現の定着を確認していく。● ICT 機器を活用し、Qubena等のドリルを家庭等で用い「つまづきポイント」を念頭に基礎・基本の定着を図るよう指導する。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

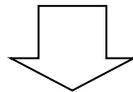
道徳科における指導の点

- 生命尊重の精神を柱に、互いに尊重し合う人間関係を築く力の育成
- 思いやりと規範意識をもって行動できる道徳的実践意欲と態度の育成

現状分析

教科指導上の課題

- 生徒が自らの変容に気付けるように学習の記録を継続的にさせ、生徒の学習状況や心情の変化や様子を捉え、適切な評価方法の工夫と改善に努める必要がある。
- 授業のねらいを明確にし、内容項目を十分に理解したうえで発問を精選し、生徒の道徳的心情、判断力、実践意欲と態度を3年間を通して育成できるように系統だった指導をする必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- 生徒同士の意見の共有方法を工夫し、コラボノートなどを活用することで1つの画面でより多くの意見に触れられるようにする。
- 道徳的価値に関する質問をGoogleフォームなどを利用した事前アンケートを実施し、授業の中心発問でも問うことで生徒の変容が見取れるような授業展開をする。
- スカイメニューのポジショニング機能を利用することで生徒の心情を生徒同士で簡単に見られるようにする。
- 教材の特長をよく理解し、それに合った授業展開やICTの活用をしていく。